

## 令和7年度第1回太宰府市幼保小連携部会 会議録（要約）

日 時：令和7年5月13日（火）午後6時09分～午後7時38分

場 所：市役所4階407会議室

出席委員：出席3名、欠席1名

市出席者：学校教育課長、指導主事、保育児童課長、保育所係長、児童福祉係長、  
児童福祉係員

傍 聴 者：1名

### 【協議事項】

#### 議題1 他市の事例について

##### ○事務局

まず議題1、津和野町の架け橋プログラム事業の動画をご覧になってのご意見をまずお話ししたいと思います。

##### ○A委員

本当に素晴らしい、動画自体もわかりやすかったです。大いなる目的というか、そこに生まれ育って、本当にそこをどう思うのか、というのは一番大切なところだと感じました。太宰府市だからこそこできることが、可能性がすごくあるんじゃないかなと思ったので、この部会ができて、進んでいければ本当に良いことだと思います。

##### ○B委員

この動画の写真だけでも子供たちの生き生きとした笑顔が感じ取れます。0歳児からの人づくりというのは、私もすごく今感じておまして、この表の中に課題を見抜く力、対話する力、行動する力、これは今の令和の日本型学校教育で目指しているところと相通ずるなと思って、そういった見方、考え方で、子供たちを大人になるまで育てていくというのは非常に大事ではないかなと考えております。

##### ○指導主事

こういったプログラムがあって、津和野の校区もすごく注目されてると思うんですけど、そこまで含めて18歳まで、ちゃんと地域で育てていくところは、素晴らしいなというふうに思いました。

ぜひ取り入れたいと思うのは、このOECDでも提唱しているARサイクルだと思います。自己調整学習とか、技術的な学びといったときにいつも出てくるキーワードなんですけど、どうしても教師主導の授業になると、子供にめあてを持たせて、活動させて、まとめさせるみたいな、させる授業になりがちですけど、ちゃんと子供たちに課題作りを、幼児期

から自分たちで問いを見つけるとか、そして自分たちでまずやって、予見して、行動してみ、失敗することも含めて振り返っていくという学習が、今我々もぜひ学校教育へ取り入れたいなというところです。

他の町は幼稚園と保育園と小学校と中学校までで、そこでやっておられた授業の中で、研究の成果としてあったのが、幼稚園の先生方の授業の素晴らしさを、中学校の先生が学んで、子供の主体性を大事にすることの大切さも学んだということをおっしゃっていました。我々も学ぶべきところたくさんあると思いますので、そういったところを、ぜひ太宰府市でも広めていけるといいなという感じのところでございます。

#### ○学校教育課長

教育委員会としても、卒業した後とか、子供の成長全部を考えた上の取り組みをやっていく、というところです。なので、今回我々として教育委員会としてですね、何かどういふふうな取り組みができるかというので、常にこの会議に参加してるところです。

#### ○保育児童課長

動画を見させていただいて、やってることが本当に素晴らしいなというところは一言やほりありました。前回のこの部会の中の話でもあったんですけど、今、連携といっても、気になる児童の情報共有に留まってしまっているというところから、いろんな人の前向きな考えによって変わっていったるところが、すごい取り組みだなというふうには思ったんですけど、ただあの動画中ではすごくわかりやすくまとめてあったんですけど、実際にはあれに見えないところでも、やはりいろんな周りの調整とか大変な部分は、いろいろあったんだろうなというのちょっと推測しておったところです。ただ、それでも何かしらやっていくべきだなというふうに改めて思ったところです。

#### ○保育所係長

動画で出てきたキーワード、大人の日線合わせが成功すれば幼保小接続もきっと成功するという感想を持ちました。

#### ○児童福祉係長

地域の特性というのはあるんだろうなと思うので、太宰府市でどういふやり方ができるのか、太宰府の規模になったらどれぐらいのことができるのかなというのをここで話していければいいのかなと思って見させていただきました。

#### ○部会長

システムは作ってもそこに人がついてこないという意味がないというところなんだろうなというふうに思います。

ただただ負担が降ってくるということだと、やっぱり何かうまくいかないというところは当然あると思うんです。私達こうやって部会員が動くことももちろん大事ですし、それぞれ最初に校長先生であったりとか、教育委員会とかが動いていただくことというのはあるわけですけども、最終的には現場の 5 歳児の担任と 1 年生の先生方というのがここに意味を見出していくということが非常に重要になるかと思えます。

保育所でも一気にその非認知能力が大事というところに舵を切ってから、私達の園も一斉保育から変わるのに、ずいぶん苦労しました。そこにいろんな葛藤とかもありながら、例えば、主幹を持ってる保育者が、今日言ったのが、本当に変わるのも大変だったし、自分の今までが全てが否定されてるような気分になる、というところからのスタートだったというふうには言ってるんですけども、今課題がまだまだありながら、変わると子供たちが変わって、子供たちのその声が聞こえて、それでその保育が楽しいという感想をもらったのが、すごくありがたいなというふうに思いました。

現場の先生方が、これをやることで保育、そして教育が楽しいというふうに思えることが、一番大事なのかなというふうに思いながら、この津和野町の事業に関わっていたところでした。現場の先生同士でこういった関係性が出来上がっていくということも他の現場の先生たちにとっては、とても楽しいことだと思いますし、そこでまたそれぞれのやり方を学んで、そこで他の保育、教育が変わっていく上で、失敗することも多々あるけれど、そこが成功していくことで、こっちの道っていいよねというふうに思っていけるように、何かできたらなというふうに思っております。

## 議題 2 各調査事項の説明

- ・令和の日本型教育について
- ・生活・遊び・学びの一体性について
- ・学力育成プランについて

### ○事務局

それでは議題の 2 つ目です。それぞれ調べていただいたことを 10 分程度でご説明いただければと思います。まず「令和の日本型教育」について B 委員お願いします。

### ○B 委員

この資料は、令和 3 年の 1 月 26 日の中教審答申を非常にわかりやすく文科省がまとめた資料になります。なぜこれを選んだかということ、令和の日本型学校教育の変遷というか、どうして生まれてきたのかというのが非常にわかりやすく書いてあるなということで、この資料を選んでまいりました。もうご存知の通り社会背景については、ソサエティ 5.0 時代ということで、もう AI が身近になり、そして IOT、ビッグデータでビジネスが成立するようになり、もうこれから先の子供たちが大人になって働く頃には、約半分の仕事がなくなっ

ているのではないかというふうに言われています。その仕事の中でどんな仕事が残っていくかというところを論議していくと、当然AIを使いこなすICT活用する仕事、そして人と関わる仕事が残っていくというふうに言われています。

それを踏まえたうえで、今の子供たちが大人になって、この非常に予測困難な時代を生き抜くためには、学校の中で、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びということで、個別最適な学びというのは、子供たちが主体的に学ぶ、最近、研修会がございまして、主体的と自主的は違うとすごくわかりやすく、私の腑に落ちる説明をいただいた方がいたので、その方の言葉をお借りして説明すると、自主的というのは、元々ある課題に向かって進んでやる、例えばお手伝いをお母さんから「茶碗洗いをお願いね」と言われた。その茶碗洗いというのが自分の課題であると、その課題に向かってお母さんから「しなさい」と言われる前にしようかなとか、お母さんが困ってるから今度はお茶碗出ししようかなという、決められた課題の中で進んでやるのが自主的であると、主体的は、自分で課題を見つけ出すことが主体的な行動であるというふうに説明を受けてすごく腑に落ちたんですね。

この主体的な学びを生み出すための個別最適な学び、津和野のカリキュラムの中にも、課題を見抜く力、そして対話する力、行動する力というのが令和の日本型学校教育の目指す姿とすごくリンクしているというふうにお話したんですけども、その主体的な学びを生み出すためには、子供たちに課題を見出す力が必要だし、子供たちに課題を見出させる活動が必要、そして人と関わる仕事に就くためには、人と共有して課題を成し遂げる。そういう経験が必要であるということで、協働的な学びということが大事であると謳われています。学校現場も、先ほど一斉授業の中で課題を、めあてを持たせて、自分で考えさせて、そして必ず他者と交流をして、自分の学びを持っていくというこの一斉授業を、少しでもこの課題を見つけるところから子供たちが主体的に取り組めるように、授業を構成できないかなというふうに考えていることが、今の令和の日本型学校教育に相通ずるのではないかなというふうに私は考えています。

しかしながら、教員も若返りを図ってございまして、今、若年教員が非常に多い状況なので、なかなか一斉学習から抜け出れないという大きな課題がありますので、私も校長として、どこから手をつけたら先生たちが、学習を仕組むことが楽しいって言ってくれるかなと、どんな学習を仕組んだら先生たちが楽しいって言ってくれるかなというのを日々考えて、今先生たちにお伝えしているところです。

あともう一つはですね、働き方改革という大きな課題がございまして。ICTの活用によって、教育委員会の力をお借りして公務運営システムの一本化が図られたんですけど、そこで公務上の合理化、効率化はなされてるんですけど、子供たちにICTをどのように使わせて、どのように交流させていくかというところが、学校現場の大きな課題かなと思っています。すいません。ザクっとした説明にはなりますが、文科省の資料からの説明を終わらせていただきます。

○事務局

ありがとうございます。今のお話聞かれて何かご質問などありましたら、お願いします。

○部会長

うちの園で言えば、若い先生たちは割とその他の学校を出て主体的で強制的に深い学びところを養成過程で学ぶんですけども、どちらかという古い先生たちの方が昔のやり方というところが固まってたんですけど、それが学校側では逆だったということが少し意外で、しかもなんか面白い現象だなと思ったところでした。

○B 委員

先ほど大人が目線合わせが、この架け橋プログラムには大事だという話を私はすごくよくわかったんですね。先ほどの若年教員がなかなか一斉授業から抜け出れないというこの大きな課題は、大人が目線合わせがなかなかできていないというところに、私は起因してるんじゃないかなと、子供たちをしっかりと見ながら学習を仕組んでいくことに非常に苦しさがあります。

○事務局

それでは2つ目です。「生活、遊び、学びの一体性について」の説明をお願いします。

○部会長

今回、生活というところまでうまく入れなかったなと思って、この「幼児教育における遊びと学びの一体性とは」というところで、話をしようかと思います。保幼小の接続において現場の教師、保育者が学びたい幼児教育の特性というふうな、かたい内容ですけども、まずこの写真です。

砂場遊びが好きなAくんの写真を持ってきました。これ、この子は砂場遊びが好きで、毎日、毎日、やっているわけですけども、他の子と遊ぶことももちろんあるんですが、まだこの子は2歳児、3歳ということで、1人遊びもすごく好きなんです。

課題保育要録での引き継ぎというところですけども、これAくんが好む砂場遊びを5歳児までやって、その子が卒園するときに保育要録という小学校への引き継ぎ書には「砂場遊びが好きです。」とだけ書かれているというようなことが、結構全国的に多い、そうすると小学校の先生も要録読んで、何となくAくんのこと、砂場遊びが好きなんだなということを想像して、わかったとなる。これは小学校側の問題というよりは、幼児教育側の担任の言葉足らずというところに起因しているのかなというふうに思います。この要録というのは、ただ単に子供をお預かりする、ただ遊ばせておくという以外の保育と幼保と教育の一体的な営みと言われてますけども、教育の営みというところがしっかりと記されてないし、「砂場

遊びが好き」と言ったときに、果たしてこの教育的な視点というのが、きちんとあったんだらうかというところが、問われなければいけないところかなと思います。

砂場遊びのAくんがどんな学びをしているか、Aくんがこの写真のようにサッカーボールに砂をかけているとき、例えば砂の硬さであったりとか、色、手触り、可塑性であったり、地球の重力、そしてそこに砂をかけるときのバランスでこの砂のその深さなどなどなどなど、たくさんの学びというのを、彼はやっているということ、それを少し堅く言うと、彼は世界の不思議を知るとともに、1人科学しているという姿、これをどこまで私達が見つげ出せるかというところがポイントなんじゃないかなというふうに思います。

彼が自分で能動的に世界に働きかけて世界を知り、また自分のイメージ通りに世界を創造し、想像できるときはいいけれども、意外なことがあったりとかして、あるいはうまくいかなさから、世界の新たな性質を知るということで、この幼児期の教育というのは学習の基礎という学びに、3つの資質能力でも基礎というふうに銘打たれているわけですが、豊富な経験を通じて、世界の不思議さを知って、自分から世界への働きかけを知るための誘いというところに繋げていくというのが、幼児教育に重ねた大きな使命だというふうに思っております。

次のページです。遊びに行く子どもと保育者、というところですが、幼児期の学び、すごくざっくりとですが、自分の興味、関心から、遊びを始めてそれぞれの好きな遊びを追求しきった先にある、活きた血というのを体得していく。それが小学校以降の学びで自覚的な学びというふうに称されることもありますが、これまで培った自分の経験を、自分の経験が紙で書いてある教科書に、書いたらこういう経験なんだなというようなメタ認知をし、あるいはまだ自分の経験以上の、たくさんある広い世界というところが、教科書に、カリキュラムに詰まっています、自分の経験以上の学びを行うということ、そしてそれがソサエティ5.0というところにも繋がっていきます。これまで培った自分の経験知識経験を生かし、それぞれの方法で大人もたくさんいろんな個性があって、自分の得意なところを生かしながら社会に貢献していくということになっていくということです。この幼児期の学びでちょっと一つ補足なんです、そこに保育者の役割ってどういうことかなって言ったときには、保育者が子供の豊かな経験ができるための環境を構成するということです。

保育所保育指針の1丁目1番地に、保育は環境を通した保育を行う幼児期に幼保と教育との一体的な営みを行うと書いてあって、この環境を構成することで、この保育を行うということが非常に重視されています。環境を構成して遊び込んでいる様子から、子供たちに今何が育っているかなというところを分析し、同時にもっと育ててほしいという願いとともに、その子の可能性を伸ばすための環境を再構成するという幼児教育の基本的な方針であります。

次になります。この2番目、遊びを見つけるというところから、遊び始める、遊ぶ、遊び込む、遊び切る、そして次の遊びへ、という遊びの段階がありますけれども、この遊び込む、遊び込んだ先、追求した先に、活きた血を体得するというところから、そこに特化したのが

幼児教育のカリキュラムの特徴で、一斉の到達目標がないというのは、個別にその子の興味関心から始まるので、その子その子が学んでいく内容というのは違います。なので、一斉の到達目標がない。そして時間が時限で区切られていない、教科ごとに区切られていないというところは、ここの遊び込むというところをいかに実現させるかというところで考えていくと、わかりやすいのかなというふうに思います。だからこそ私達は、保育所、幼稚園というのが自園を振り返ったときに、子供の経験とか学びというのを一律に考えていないか、それぞれが育っているところというのが違うのに、というところが一つ目、そして2番目、子供の遊びが、遊び込むができるか、子供の遊びが日をまたいで継続しているかということも、一つの指標になるのかなというふうに思います。

そして到達目標ではないので、保育園幼稚園の狙いが、何々ができるようになるというふうになっていないかというところは、一つ自園の教育の質を見直すポイントなのかなというふうに思います。

言葉にされているのが、これ保育所保育指針を一部アレンジしているところですけども、幼児教育の基本というところで、幼児がそれぞれ発達に即しながら、身近な環境に主体的に関わり、心が動かされる体験を重ね、遊びが発展し、生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして諸感覚を働かせながら試行錯誤したり、思いを巡らせたりするというところ、ここが幼児教育の基本が言葉に詰まったところかなというふうに思います。

そういった中で最後のページです。保育所の援助の基本というところでこの遊びを通じた学びというところに、子供理解があり、そこから直接間接的な援助を行い、かつ今後の数の予測や期待に基づく次の計画を立てていくというような援助をやっていくというところ、ここにいかに忠実に、これは言うのは簡単だけど、それを本当に体得する、実行するというのは難しく、いろんないちの園も含め、課題があるところですけども、ここに近づけば近づくほど、ここから先の小学校の令和の日本型学校教育というところとすんなり繋がっていくのかなというふうに思います。私からの説明は以上になります。

#### ○事務局

今の説明に対してご質問等あればお願いします。

#### ○B委員

最後のページの幼児教育の基本、ご説明いただいたんですけど、主体的な関わりとか心が動かされる体験、ここは非認知能力も含めて、育てられるし、その遊びが環境との関わり方や意味に気づくというところは小学校の学びに通ずるし、これらを取り込もうとして諸感覚ってこれ脳の開発の発達にも繋がると思います。幼児期とそれから低学年の子供たちって、ものすごく脳の発達に私は寄与しないといけないと。学習は、脳科学的に見ないといけないと思っているものですから、すごくこの諸感覚という言葉にものすごく理解出来たし、

それから試行錯誤したり、思いを巡らせたりするというのは、最後までやり通す力、これも非認知能力ですけど、ここを高めるのではないかなというふうに考えました。本校の重点目標が「自分でチャレンジ、諦めずにチャレンジ、仲間とチャレンジ」というこの重点目標3つあるんですけど、ここにとっても通じるなと自分ながらわくわくしながら聞かせて頂きました。

#### ○A委員

子供の中ではやりたいことを遊んでるという、おそらく意識してないんでしょうけど、したいことをやってるというようなことも大きいなと思っていて、その中でやっぱりいろんな学びがあって、本当に子供が無邪気だなということがあるんじゃないかなと思うんですけど、そういったものが子供が小学校に入る前までは、入ってからすごく大切なことだと、それは大人になるにつれて薄れていくので、いいことでもあるけど悪いことでもあるんじゃないかなと思うので、幼稚園、保育園の中でもそういったような教育の中で、そういった遊びの中から、様々な事に繋がっていくと。逆になかなかそれも難しいというか、園の中でどういうことで、それがうまくいかないときは、遊び切らせられないとか、何かそういった現実があるんですか。

#### ○部会長

やっぱり子供って小さいながらに、すごく空気を読んだりするので、先生がこういうふうにしたって言ったときに、素直にそこに従って、そして何かそこで楽しそうに見えるので、先生が一斉に活動を与えて、やりますって言ったときに、その中に楽しみを見つけるので、それで今の遊び、遊んでるというふうに思ってしまうんですけども、でもそこをやっぱり私達がまだ子供を知らないというところで、本当にその子供が遊びきった先に学ぶというところを、保育者自体が私も含めてですけど、知らないというところがやっぱり、この基本に到達するためのハードルかなと思います。極めきった先に、こういうこと、というところに出会えることはすごく幸運だなというふうに思いますし、そこに至るために私達も教育が今まで本当にガチガチの一斉だったところから、一斉も個別も、というところのバランスを取りながらやっていくというところが、なかなかまだ難しいところがあります。

#### ○A委員

時間的な制約で、できないよとか何かそういうことですか。

#### ○部会長

時間的な制約はもちろんあるんですけども、でも例えば、これの次にこれをやって、これの次にこれをやって、というのが、その子その子の可能性を引き出すための活動になるかどうかというのは、やっぱり日々忙しい中で忘れ去られることも多いのかなというふ

うに思います。何時までに、例えば給食食べなきゃいけないくて、それから何時までに何をやって、朝の会がこういうふうになって、帰りの会がこういうふうになって、とどうしてもなりがちですね。自分が何かを言うことで、みんなが一斉についてくるというのはやっぱりすごく楽でもあり、そこにそのあと自分の有能感、保育者自身の有能感というようなところもあったりして、なんか今思いつく限り入れてますけど、そういったところはあるのかなというふうに思います。

#### ○A委員

大人の目線あわせが園の中でも、他のところもだけど大切ですよということですね。そこは何か先生も1人だけでできるわけじゃないし、声のかけ方とかそのときに合わせた、言葉のかけ方とかの対応の仕方というのが、多分先生たちもなかなか若い先生とか、なかなか経験もなく本当にじゃあどうしたらいいのかというようなことで、なかなかうまくいかないというところが実情な感じなんですか？

#### ○部会長

そうですね。そこで培われたまま、ある程度やり方が固定化すると、自園のやり方というところが固定化するわけですけども、それを打ち破るためには、いろんな研修に行くというところも一つですし、もう一つは園同士でお互い方のやっってることというところをその切磋琢磨することで、自分の園のやり方、自分のやり方と相対化してみるというところが大切になってくるのかなと、それにも関わらず、ちょっとまだ保育業界では、お互いの園を公開し合って切磋琢磨するというところまでにはなかなかいかないなというところで、この保幼小の連携通じて、逆になんか1園では難しいところが、みんながやるからこそできることというのはあるのかなというふうに、そういったところが鍵になってくる気がします。

#### ○指導主事

私も含めてですけど、若い先生方、私が若いときもそうだったんですけど、このAくんの写真を見たときには砂場遊びが好きだったり、一人遊びが好きだったりする、これは小学校の課題でもやっっていて、生活科のあの実践発表する若い先生がいて、集団遊びをさせたりする、遊びという時間があるんですけど、遊びの学習あるんですけど、身近なものを使った遊び、砂場遊びもちろんすることもあるんですが、こういう状況を見たときに、この子が1人遊びをしているのは問題なので集団遊びをするための仕掛けを作りました。ってその子は悪気なく説明するわけですね。でこちらの裏側を見ていただいたらわかる通り、この子が想像している世界をちゃんと見取る力がある教員は大事だし、それを創造する力があるからこそ、問いかけが違いますよね。「何で1人で遊びよると？」じゃなくて、「どんなこと考えてるの？」って聞いたら、きっとこういったことを、「地球だと思ってやっってるんだよ」とか、「お星様だと思ってやっってるよ」とか、いろいろ子供なりに想像していることを、ち

ちゃんと教師が聞き取ってあげて、保育の中でしている姿を、多くの方が、最初は1人かもしれないけど、少しずつ広がって成果を出せるんじゃないかなというふうに感じました。やっぱり質の高い保育もそうだし、先生がおっしゃった質の高い学習とか、学びというのは、やっぱり教員の目、見取り次第なのかなと思いながらこの写真を見させていただきました。

#### ○部会長

ありがとうございます。そうですね、同じ一つの場面を見たときに、やっぱり何かそれぞれ職員の持つてる背景というのはすごい違うので、そこをこの人はこういうふうに考えた、この人はまた別のことを考えていて、その見立てというのがすごく素敵だったというところが、やっぱり何かそこにそんな考え方もあるんだなというふうに広がっていくというのがとても大事な気がします。その見立てに正解はないので、誰が正解というわけでもないけれども、こんなにいろいろこの子の姿を見て、こんなに豊かな見取りができるんだというところに、何か私達の職員のやりがいというところが実は隠されてるのかな、教育って面白いというふうに思えたらいいなと思っております。

#### ○事務局

それでは3つ目の「学力育成プラン」についてお願いします。

#### ○指導主事

太宰府市では、「学びと定着の太宰府学力育成プラン」ということでさせていただいています。令和の日本型学校教育の構築と、遊びと学びの一体性とかの、まずその前提となる部分をきちんとやっていきたいと思いますところが、こちらの取り組みの特徴かなと思っております。

左側がまず教師の指導力育成のベースになるところでございます。先生の資料にも載っておりますが、一斉授業は個別学習等の向こう対立の完成に陥らないということが強調されているとおり、一斉授業がうまくできない教員が、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実はできない、というのはベテラン先生ならわかるとおりで、まずそういったベースのある教師の指導力を高めていきたいと思いますというところで、太宰府塾の開催というところで、これは授業や学級経営を支える基礎的なスキル、20分間程度、ショート講座みたいなのをしております。

もう一つがワンオンワンミーティングとあって、若年の教職員の授業に対して、授業作りの授業だけ見てコメントを言うような取り組みではなく、授業前からしっかり関わって、授業したことを評価していくような取り組み、そして校内研修の充実というのは、当たり前になってると思いますが、それぞれ学校に向向している次第です。残念ながら私はまだ行けてませんが、聞くところによるとすごく評判がいいということで聞いています。

右側が個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実とかに入る前に、きちんと基礎学力

を身に付けましょうというところでは、特に小学校では、短時間学習での反復だったり、定期的な復習での反復によって、子供たちが学習にまず参加できる土台作りをしようということをしています。中学校につきましては、特色としてある部分、太宰府ならではのところは特にはないんですが、単元テストの実施の中では、復習テスト、やり直しというところをきちんと位置付けるってところは、意味があろうかと思ってます。

進学、進級に向けた基礎の育成をしっかりと中学校に送り出しましょうってことを、しっかりとさせていただいている、また中学校においてはNRTの調査でも、小学校6年生の担任の先生が、学級がどうだったかというところをきちんと報告して、指導改善に活かすように引き継いでいるところがございます。

太宰府塾について、教師の指導力育成というところですが、いじめ事案があると、もう学級が、学習ができなくなってしまいます。教師も授業に集中できませんし、授業作りも集中できませんし、子供たちの関係が唯一になってしまって、本当に現状回復するのはとても時間がかかります。ですので、いじめは起こりうるものですが、すぐに対応できるように、うまく対応できるようにということではしております。例えば、こちらは、教育長が指導主事時代に作られた資料なんですけど、寄り添うというところでは、本人への聞き取りと、そしていじめた子の保護者への対応というのがあります。これはなかなか我々も経験し、失敗しながら動いていた部分ですけど、こういったものをきちんと若年の教員にも伝えているというところでは。

また、スケジュールというところでは、箇条書きで書き表すとかそういうところも大事なんですけど、事案が起きた後にいつ電話をするかというのを、よく教員って忙しかった時に忘れがちなんですけど、何日しておくというのをスケジュール帳に入れておくと、保護者と定期的に関わりを持って安心感を持たせられるというところも、教育長ならではの経験に基づいたことを若年の教員にも伝える取組みをしています。太宰府塾は出席後にすぐ使えるスキルというところを見つけていくことを目的とした研修、なかなかハウツーの研修というのはどうなのかということもあろうかと思いますが、一番まず、先生方、若年の先生方が困らないようにすることを大事にしたものがございます。

ワンオンワンミーティングでは、一つ一つの授業作りについて、指導主幹が関わっています。3人の指導主幹は定年を超えられたベテランの先生方ばかりなので、すごく納得いくご指導をしていただいたというところで受講者の感想があっていました。

今年度はミーティングでは自立活動の授業作りについて指導していただきました。初めての特別支援学級担任だったので、学校内でも相談できる先生は少ない。自立活動の授業作りについて専門的なアドバイスをいただくことは大変勉強になりました。ちゃんと授業作りを1個1個、一緒に伴走しながら作っていたという様子が、この感想からも伺えると思います。こういった取り組みを一对一でしていくことによって、太宰府市の先生方の力量を高めていくというところを大切にしています。

続きまして、子供たち、特に小学生は反復したりするのがとても大好きで、言葉を唱えた

りとかするということは大好き、例えば「海底、開票、百貨店」とか、何か入りやすいリズムで、読みの力も高まるというところで、楽しく基礎学力をつけていくという取り組みをしておられます。1列で歌ったり2列で歌ったり、全員で歌ったりとか、体も動かしながら楽しく学べるようなことを朝にして、学習へのウォーミングアップをしているというところ

です。  
リズム、テンポ、綺麗ということです。基礎的なところをベースとしたうえで、本年度からは、AIドリルというのも導入しております。理解のAIと、定着のやり取りで、理解スピードが向上しているかどうかというのをAIが解析して、搭載している専門の問題から、最適な問題を子供によって違う問題が提供されるという、ぜひちょっと皆さんやっていただきたいと思うんですけど、結構楽しくできるので。

また、定着といった部分では、個別最適なところ、例えば文法が苦手な英単語は得意なお子さんにとっては、文法がわかる問題を搭載したり、文法は得意だけど英単語が苦手なお子さんに対しては、ライティングで、文字を書いて、個別最適な学びというところを位置づけようとしております。

AIならではですが、忘れそうなときに、きちんと問題を出してくれるということで、毎日タブレット開いてさえいれば、定着はしっかり測れるというところがございます。というところで指導力育成と、定着を図る学校体制というところを今年はAI導入も含めて、頑張っていこうというところが太宰府市の学力育成プランでございます。

#### ○事務局

内容について感想とかご意見ありましたらお願いします。

#### ○A委員

AIは今年からということですよ？

とても素晴らしい。AIすごいですよね、こんな素晴らしいものがあるかと思うので、活用できるといいと思うんです。実際に子供たちの、開いたら、復習のその中で、タブレット開いて、そこにぱっと問題が出てくる。

#### ○B委員

全教科入っていますから、家庭学習とかで持って帰ってやったりとか、あと先ほど短時間学習の中で紹介がありましたけど、そこで使われたりとか、よく授業と授業の間の隙間の時間を使ったりとか、活用しています。

#### ○A委員

配る時間も短縮できるし、使える時間がかなり効率化をされて、そういう活用の仕方があるんですね。

○B委員

まさしく個別最適な準備をして、つまづきがあるから見える。

○指導主事

どういうつまづきがあるかも教員も子供も把握できる。

○B委員

ログが見えるので。この問題で間違ってます。あとどのくらいあります。

○部会長

O J Tの研修ってどんな感じですか？

○指導主事

基本的にO J Tの授業は校内圏である場合というのは、大体、教科部だとか研究員とかで審議をして、授業して指導主事等が来て、その場だけ来てコメント言って終わりというのが大体定番なんですけど、このワンオンワンミーティングは、授業指導案を書く前から、何回も子ども、先生に関わって授業作りを見て、評価して行って、次の授業に繋げていくみたいなことを理想として始めて、受講者の感想から言うとすごく良い感想、授業作りからずっとたたき込まれてやらされて、授業したら辛辣にコメントを受けて、もう自分の中で見せるかとか思っちゃうことが若年ときあったんですけど、何か受講者の方の感想を見ると、やってよかったとか人数とか伸びたとか、手厚いサポートだなというふうに感じています。

○B委員

教員の個別最適な学びと主体的、共同的学びと私は思っていて、校内研修のことで付け加えをすると、異動した小学校ではまだできていないんですけど、前任校ではO J Tという形で同じ時間を、例えば3クラスあったら最初にA先生がやります。それを協議して改善して、B先生がやります。とか最後にまたあの改善して若年者がやります。というような形をとることによって若年教員にとっては、どこを授業作りで大事にしなきゃいけないとか、どこを改善すると子供たちの姿がどう変わるのかとかいうのを目の当たりにして、実際に自分で最後やるというような形のO J Tを集団研究で行っていました。

○部会長

あともう一点質問なんですけども、この校内研修の他に、校外研修、先ほど校長研修があったというふうにおっしゃってましたけど、私達保育者にとって、小学校の先生方がどんな研修されてるのかをぜひ教えていただければ。

#### ○指導主事

太宰府市主催の校外研修というのはあんまりないのかと思うんですけど、県の方で例えば、県の重点課題の授業を見に行くような研修もあれば、センターでのキャリアアップの研修だとか、あとは教師塾と言われるような、高名な方をセンターの方にお呼びして、そこで語られるみたいな研修もあります。それは学校で1名か2名しかないと思うんですけど、中央研修って言われるものがあるって、つくばの方に行って、研修を受けるというようなものもあります。ちょっと数年前まではオンラインだったんですけど、また宿泊型で全国の先生が集って、校外研修するというものもあります。

#### ○部会長

保育所にも、キャリアアップとかあって、それこそなんか4単位ぐらい取ったらみたいなことはあるんですけども、学校でもキャリアアップの研修があるということすら知らなくて、キャリアアップってどんな例えば科目をされてるかも教えてください。

#### ○B委員

多岐に渡っています。現在の研修は、その教員の課題に応じて選べるようになっておりますので。ただなかなか当たらないです。校長対象の研修もあれば、主幹教諭対象の研修もあれば、一般教員で教科等の学習に向けての学びを深めたいという方については、その研修があり、プラントというシステムの中で自分で研修を見つけて、自分の課題に応じて学んでいくという形があります。

#### ○事務局

他に何かございますか？議題1、2を通して、皆さんの今後に向けて必要な知識の共有ができたかなと思います。

#### ○保育児童課長

今後についてということで、今後の部会に関わってくるところなんですけど、今考えておりますのは、前回3月の1回目と今回をもって幼保小連携というところの共有をして、今回は実践しているところ、先進地の事例、そして2項目めで、3つのテーマに沿ってそれぞれの立場からご説明いただいて、一定の目線合わせといいますか、意識の共有を図ってきたところです。

今後については、それを太宰府市に置き換えたときに、どういったことができるかとか、今後やっていくにあたっての枠組みといいますか、そこまでできるかどうかはわかりませんが、太宰府に置き換えたときの今後を少し整理して、皆さんにお示ししたところです。第2回目の部会に繋げていけたらいいなと考えています。

○部会長

津和野での架け橋の年間計画表が上がってるんですけども、これ以外にも幼保小の連携架け橋プログラムで、年間計画表を出しているところもあると思います。太宰府市で年間計画立てるときに、どんな感じいいかというところが、次回皆さんとお話できたらなというふうに思います。

○保育児童課長

いろんなご意見とかもあろうかと思えますし、また議論ができればというふうに思っております。